

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年 9月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401269		
法人名	有限会社 薫風		
事業所名	グループホーム 陽だまりの家		
所在地	南島原市西有家町里坊109番地		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町受理日	平成23年10月25日

□ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0016 長崎県島原市高島二丁目七二-七 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成23年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>□関連施設を含め地域に根づいた地域医療やケアに取り組んでいる。</p> <p>□外出の支援としては、季節感を感じられる様にお花見、つつじ見学、足湯、紅葉見学等年間行事に取り入れて、家族とともに出かけられる機会をつくり又、五感で感じられるような環境を支援している。</p> <p>□近隣の中学校と高校の生徒の福祉体験を受け入れている。</p> <p>□認知症ケアにおいては、言動の裏側に隠されたメッセージや背景を常に考えながら、「なぜなのか、何がしたいのか」とか掘り下げて考えその中で、利用者主体・個人の尊厳・介護予防のサービスを提供している。</p> <p>□ひとつひとつのケアに対して、知識や根拠に基づき、真心を込めた介護サービスを提供している。</p> <p>□気づきや考える力をつけることができるように、頭のトレーニングを行い、考えながら行動している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当ホームは、利用者一人ひとりの状況に応じたサービスを追及しながら、事故防止委員会・褥瘡委員会・身体拘束防止委員会・感染予防防止委員会の取り組みや年間計画のセミナーに沿って、接遇等の内部研修において、職員のケアにおける意識を高めおり、チームワークによってサービスの質の向上に日々研鑽されている。また、事務所に掲示されている「継続・連携・責任」の重要性を意識して、実践における振り返りや意見交換も重ね、更に意義あるケアに努められ、24時間体制の地域医療との連携により、利用者及び利用者の家族にも安心が得られている。和みの環境と落ち着きのある空間で利用者は、洗濯や料理などできることを自信につなげ日々穏やかに過ごされて、地域貢献を継続的に取り組むことで、地域に密着したホームとして、職員は利用者本位のケアに努め、更に行き届いたサービスへの研鑽と充実に取り組まれている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア会議を開催することで、理念の共有を図りながら、意見交換や議論の重要性を大切にしている。また人材育成の場とも捉え、実践に繋げている。 	理念にそった具体的なねらいと目標を各ユニット別に決めている。また、長期と短期の目標と研修内容を共有し、利用者のケアの実践に取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者やその家族の方々及び、職員・業者を含め、お互いの関係性を深めている。外出先では挨拶を交わしたりして日常的に交流を行っている。 	地域との関わりを継続的に取り組まれることで、地域への知名度も広がり中学・高校の福祉体験の実施により、介護職の育成にも繋がっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者家族等の面会時や電話での相談・報告を通じその会話の中で、知識や経験から、例を上げ支援の方法や考え方を提案させていただいております。 	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・会議出席者の構成をはじめ、より多くの意見や改善点など出しやすい環境をつくることに重点を置いた取組みを行っている。実例として、駐車場や階段が利用しにくいとの声が聞かれ、すぐに整備を行いました。 	2ヶ月を目途に会議を実施され、利用者の状況や行事報告及び計画を詳細に報告して、意見の集約により迅速な改善に取り組まれている。又、会議内容は参加されていない家族にも発送されている。	会議の内容の更なる充実を図るうえで、会議の議事内容にそって消防署や警察、地域の協力者の参加を働きかけて、協力的意見の集約を期待したい。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南島原市となって各課の担当者に、申請、調査時などで不明な点がある場合、意見交換を行いながら、より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。	身寄りのない利用者が亡くなられた際、市との連携により埋葬に至った経緯や、地域包括で取組みの傾聴やボランティアの育成後の訪問実施を予定されている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束委員会を中心として、勉強会を開催し具体的な行為等を正しく理解している。又、寄り添う心のケアを持ち、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は行っておらず、身体拘束委員会において、内部研修や理解度の小テストを実施して、拘束のない見守りや受容の姿勢をもって取り組みながら研鑽に努められている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束委員会の中で学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、同様に入居者のこれまでの生活歴をリスペクトすることで、防止に繋げている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・認知症実践者研修等に参加して理解に努めている。また、市の担当者、社協、当ホームの関連施設の社会福祉士等を交え話し合いながら支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約に関して、入居前にできるだけ本人と家族が一緒に見学に来てもらい、不安や疑問点がある場合は、十分な説明を行い納得をいただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・毎月陽だまり新聞を刊行して、お知らせや行事等を記載し情報を発信している。また、面会時に入居者の日常生活の暮らしぶりを報告するだけでなく、家族等の意見や要望等を頂戴している。</p>	<p>利用者及び家族に安心をえて頂ける様に、意見や要望は迅速な対処に努めている。家族へのお知らせや行事の情報は透明的に発信して、気軽な家族の訪問も笑顔で対応に努め、状況を報告されている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者は、職員がこころを開いて話しやすい関係性を築いて聞く機会を設け、反映できるように代表者へのつなぎ役として取り組んでいる。</p>	<p>新人研修で介護職に就いた経緯の発表等人材育成に努め、セミナーの機会に懇親会を設け親睦を深めたり、職員相互に意欲的な取り組みを奨励されている。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・キャリアパスとして、職員の資質向上の為に目標を設定し取り組んでいる。また、個別面談を実施するなど、意識改革及び環境面での整備を図っている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・関連施設を含む委員会の勉強会を開催。その他、ユニット毎で目標を設定し脳トレで知識を学びながら、ケア技術等を習得し能力向上に繋げている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・介護事業所連絡協議会に加盟して同業者との交流及びネットワークづくり又、勉強会を通じて、サービスの資質向上に取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・本人が安心して納得できるように、要望等に対して、適切に答えながら、安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・サービスをいきなり開始するのではなく、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本人や家族の希望、要望を傾聴し確認作業を行いながら、対応している。医療面では、主治医に相談して指示を受け、ケアを提供している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・本人ができる事できない事を把握し、生活リハビリも兼ねた上で、一緒に食事の片付け、洗濯物をたたむ等、簡単な仕事を行ってもらっている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・行事ある事に電話や新聞にて家族への参加を呼び掛けたり、新聞にて施設での様子を知らせたりしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・特にカットやパーマ、毛染めにセット等については、入居者の希望を聞きながら、馴染みのある行きつけの美容室に同行したり、一人ひとりの関係がとぎれないよう支援に努めている。</p>	<p>利用者の要望に応じて、家族や親戚の知人と馴染みの関係が継続できるような機会を大切に、支援に努められている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・職員が利用者の間に参加して、お互いが関わり合いながら、話をし歌を唄ったりと、生活を楽しんでいただいている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・ドライブなど外出した場所で合った時には、お互い声を掛け合っている。又、入院等により退居された方々については、お見舞いに行ったりと関係を断ち切らないように努めている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・本人や家族との会話から、アセスメントシートに生活歴や入居者の思いを書き込んでいる。一人ひとりにあった暮らしづくりを考えている。</p>	<p>職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握して、日常的に寄り添い思いや意向を聞き取りケアに反映されている。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や本人に生活歴を詳しく聞いて、ホームでの生活に役立てている。 		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がその日の過ごし方を把握し、職員間で連携をとり、状態の観察を行い、現状に変化がみられる場合は、報告し合うよう努めている。 		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状に応じ「なぜを」キーワードに背景を探ることによって、より良い改善方法を導き出している。会議の場では、多くの意見を参考にしながら、計画を作成している。 	<p>介護計画の見直しは、利用者の具体的要因を追求して担当者会議で話し合い、母体病院のリハビリを取り入れたり、マッサージ・散歩等の計画により、身体機能維持を目指しケアに反映されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のカルテに日々の生活記録を取り、情報を共有し又、意見を出し合いながら、より良いケアの実現に向けて、介護計画を活かしている。 		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関連施設でのリハビリテーション、家族の宿泊、個別の家庭訪問（希望により入居者同行）、買い物依頼など、満足していただけるよう取り組んでいる。 		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験学習等を受け入れて、協力しながら支援している。地域が主催するものは、積極的に参加できる様、支援している。 		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人及び家族等の希望を大切に、主治医と相談しながら、適切な地域医療が受けられるよう支援している。 	<p>利用者及び家族の希望にそって、他科受診にも家族の協力や職員の対応で、迅速な受診支援に努められている。</p>	

31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・当ホームでは、医療連携体制を整えている。その為、すぐ近くにはかかりつけ医院があって、医療機関との連携を密にしたケアを行っている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入居者が入院した場合は、病院に足を運ぶなど情報交換している。また、退院できる状態になった場合は、主治医と相談しながら、利用者が再び安心して過せるように病院関係者と連携を図っている。</p>	/	/
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・重度化や終末期のケアについては、主治医が家族に対して、当事業所ですること、できないこと等の説明を行い、同意を得てから実施している。医療機関との連携を密にして方針を共有しながら、チームケアに取り組んでいる。</p>	<p>看取りの経緯もあり、看取りに関する指針の文書にて、家族に説明をして24時間体制の医療連携でケアに取り組む内容の同意を得られている。家族の宿泊も可能で利用者の状況に応じてチームケアの方針を確立されている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・職員は、関連施設と合同で勉強会を行い、知識と技術の向上に努めている。また、医療機関と連絡を取り合い迅速に対応できる体制をとっている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・訓練の際は、自治会長や消防団の方にも声かけし協力を依頼している。また、水、食材、ラジオ、電灯、入居者のチャート、写真などをひとつにまとめて、災害時には、すぐに持ち出せる様に準備している。</p>	<p>利用者の顔写真入緊急持ち出しファイルを作成して、各ユニットの玄関に設け、備品リストも作成されている。11月にはスプリンクラーの取り付け工事と夜間想定避難訓練を実施予定で今後、地震と水害のマニュアル作成を考慮されている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・家族関係や生活歴などを把握して職員全員が情報を共有しながら、信頼関係の構築に努めている。個人の秘密保持を守り、人格を尊重した言葉かけや対応をしている。	年間を通じて計画的に、セミナー（会話の美学・私の仕事等）の研修にて、人格を尊重した言葉かけや対応の接遇能力向上に努め、日々の業務に反映されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者にとって、どうすれば自分らしい生活を楽しむことができるかを日常的に考えている。また、こちらから誘導するのではなく、利用者本位に決めてもらえるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ここでの生活の主人公が誰であるか理解すると共に今、何をしたいのかを把握して、希望に添った支援を実践している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節毎に衣替えを行っている。企画行事やレクリエーションなど行う時は、その場に合った衣装を入居者に選んでもらっている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事は、入居者の嗜好品や季節野菜を取り入れている。又、得意分野や役割が確立しており、それぞれが楽しんでいらっしやる。	家族が持参の野菜・果物を加えて彩りよく、刻みやソフト食も対応され、利用者も出来る事で職員と共に食事の準備をされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入居者の健康状態を観察し、食事面からもサポートができるように、関連施設の管理栄養士と相談しながら、一人ひとりの状態に合わせたメニューを提供している。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・毎食後、自立でできる方は行ってもらい、そうでない入居者については、ブラッシングやうがいもリハビリの一環と考えているため、できない部分を介助している。異常がみられる場合は、歯科受診している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>・排泄の失敗によるダメージを減らすため、それぞれのパターン及び記録表を参考にし羞恥心に配慮しながら、ケアを行っている。</p>	<p>利用者の排泄状況のチェックと一人ひとりの排泄パターンを配慮の上、排便の聞き取りやトイレ誘導によって、排泄支援をされている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事面では、豆乳バナナ、ヨーグルト、ゼリー等、便通に良い食材を取り入れている。又、適度な運動を行い腸管蠕動を促している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>・入居者に便汚染等が見られる時などは、タイミングよく入浴してもらっている。季節感を取り入れ菖蒲湯やゆず風呂等、支援している</p>	<p>皮膚炎の予防に希望に応じて毎日支援できる。週3回の目途で入浴され、拒否をされる場合は言葉掛けを工夫して、清潔保持に努められている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・気温や湿度といった環境面の配慮を行っている。また、夜間眠れない方には、昼夜逆転にならない様子を一日のリズムをつくり、安心して気持ちよく休息できるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・1日毎に専用ケースに納めている。内服管理ノートに薬名、目的用法、用量等が記入されている。職員は、これを周知して医師の指示とおり支援している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの趣味や力を活かした生活を取り入れて、洗濯物たたみ、お掃除、茶碗洗い、花の水まき、裁縫等を支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・気分転換として、散歩に出かけたり、日光浴、花見等出かけたりにしている。また、希望にそって、家族にも付き添いを依頼し、一緒に出かけている。</p>	<p>買い物やドライブの折に自宅によって、仏様へのお参りや利用者の要望にそって支援され、今後も車椅子等での利用者一人ひとりの外出支援を考慮されている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の意思を尊重し家族と相談して、必要に応じて必要金額を使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・いつでも電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している。入居者希望により代行して電話をしたり、手紙の代筆をするようにしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共用の空間部分については、不快感などを感じさせないよう、換気や清掃又、芳香剤等を設置するなど、入居者が居心地よく過せる環境をつくっている。生活空間部分については、四季の草花を飾っている。周囲については、自然に囲まれており又、窓からは、平成新山が一望できる。</p>	<p>共用空間にいて四季を感じられる設計で、天上の梁、和室の趣き、広いガラス窓、対面式のキッチン、すべてに落ち着きのあるスペースで、自立的な生活ができるように、配慮されている。洗濯機の配置等は、四季を通じて不便さのない施設面での充実も考慮されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・窓が広く外の景色を眺めることができる。また、和室もあるので、足を伸ばしてのんびりと、過せるよう工夫している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族と相談し、今まで使用されていた馴染みのものを持ってきてもらい、家にいらっしゃった時と近い状態になるように工夫している。	利用者一人ひとりの和みの部屋として、すべて畳の和室作りだが、利用者の車椅子での介護にビニールシートを設けて、居心地の良さを工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ等わかりやすい場所にある。床は、バリアフリーで安全に移動ができる。簡単な作業などは、共同の食堂や和室で安全にできる。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>・ケア会議を開催することで、理念の共有を図りながら、意見交換や議論の重要性を大切にしている。また人材育成の場とも捉え、実践に繋げている。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>・入居者やその家族の方々及び、職員・業者を含め、お互いの関係性を深めている。外出先では挨拶を交わしたりして日常的に交流を行っている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>・入居者家族等の面会時や電話での相談・報告を通じその会話の中で、知識や経験から、例を上げ支援の方法や考え方を提案させていただいております。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・会議出席者の構成をはじめ、より多くの意見や改善点など表出しやすい環境をつくることに重点を置いた取組みを行っている。実例として、駐車場や階段が利用しにくいとの声が聞かれ、すぐに整備を行いました。</p>		
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>南島原市となって各課の担当者に、申請、調査時などで不明な点がある場合、意見交換を行いながら、より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。</p>		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束委員会を中心として、勉強会を開催し具体的な行為等を正しく理解している。又、寄り添う心のケアを持ち、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束委員会の中で学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、同様に入居者のこれまでの生活歴をリスペクトすることで、防止に繋がっている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・認知症実践者研修等に参加して理解に努めている。また、市の担当者、社協、当ホームの関連施設の社会福祉士等を話し合いながら支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約に関して、入居前にできるだけ本人と家族が一緒に見学に来てもらい、不安や疑問点がある場合は、十分な説明を行い納得をいただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・毎月陽だまり新聞を刊行して、お知らせや行事等を記載し情報を発信している。また、面会時に入居者の日常生活の暮らしぶりを報告するだけでなく、家族等の意見や要望等を頂戴している。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者は、職員がこころを開いて話しやすい関係性を築いて聞く機会を設け、反映できるように代表者へのつなぎ役として取り組んでいる。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・キャリアパスとして、職員の資質向上の為の目標を設定し取り組んでいる。また、個別面談を実施するなど、意識改革及び環境面での整備を図っている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・関連施設を含む委員会の勉強会を開催。その他、ユニット毎で目標を設定し脳トレで知識を学びながら、ケア技術等を習得し能力向上に繋げている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・介護事業所連絡協議会に加盟して同業者との交流及びネットワークづくり又、勉強会を通じて、サービスの資質向上に取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・本人が安心して納得できるように、要望等に対して、適切に答えながら、安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・サービスをいきなり開始するのではなく、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本人や家族の希望、要望を傾聴し確認作業を行いながら、対応している。医療面では、主治医に相談して指示を受け、ケアを提供している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・本人ができる事できない事を把握し、生活リハビリも兼ねた上で、一緒に食事の片付け、洗濯物をたたむ等、簡単な仕事を行ってもらっている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・行事ある事に電話や新聞にて家族への参加を呼び掛けたり、新聞にて施設での様子を知らせたりしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>・特にカットやパーマ、毛染めにセット等については、入居者の希望を聞きながら、馴染みのある行きつけの美容室に同行したり、一人ひとりの関係がとぎれないよう支援に努めている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・職員が利用者の間に参加して、お互いが関わり合いながら、話をし歌を唄ったりと、生活を楽しんでいただいている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・ドライブなど外出した場所で合った時には、お互い声を掛け合っている。又、入院等により退居された方々については、お見舞いに行ったりと関係を断ち切らないように努めている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・本人や家族との会話から、アセスメントシートに生活歴や入居者の思いを書き込んでいる。一人ひとりにあった暮らしづくりを考えている。</p>		

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・家族や本人に生活歴を詳しく聞いて、ホームでの生活に役立てている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>・職員がその日の過ごし方を把握し、職員間で連携を取り、状態の観察を行い、現状に変化がみられる場合は、報告し合うよう努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・現状に応じ「なぜを」キーワードに背景を探ることによって、より良い改善方法を導き出している。会議の場では、多くの意見を参考にしながら、計画を作成している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・個別のカルテに日々の生活記録を取り、情報を共有し又、意見を出し合いながら、より良いケアの実現に向けて、介護計画を活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・関連施設でのリハビリテーション、家族の宿泊、個別の家庭訪問（希望により入居者同行）、買い物の依頼など、満足していただけるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・福祉体験学習等を受け入れて、協力しながら支援している。地域が主催するものは、積極的に参加できる様、支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>・本人及び家族等の希望を大切にして、主治医と相談しながら、適切な地域医療が受けられるよう支援している。</p>		

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・当ホームでは、医療連携体制を整えている。その為、すぐ近くにはかかりつけ医院があって、医療機関との連携を密にしたケアを行っている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入居者が入院した場合は、病院に足を運ぶなど情報交換している。また、退院できる状態になった場合は、主治医と相談しながら、利用者が再び安心して過せるように病院関係者と連携を図っている。</p>	/	/
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・重度化や終末期のケアについては、主治医が家族に対して、当事業所でできること、できないこと等の説明を行い、同意を得てから実施している。医療機関との連携を密にして方針を共有しながら、チームケアに取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・職員は、関連施設と合同で勉強会を行い、知識と技術の向上に努めている。また、医療機関と連絡を取り合い迅速に対応できる体制をとっている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・訓練の際は、自治会長や消防団の方にも声かけし協力を依頼している。また、水、食材、ラジオ、電灯、入居者のチャート、写真などをひとつにまとめて、災害時には、すぐに持ち出せる様に準備している。</p>		

		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・家族関係や生活歴などを把握して職員全員が情報を共有しながら、信頼関係の構築に努めている。個人の秘密保持を守り、人格を尊重した言葉掛けや対応をしている。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者にとって、どうすれば自分らしい生活を楽しむことができるかを日常的に考えている。また、こちらから誘導するのではなく、利用者本位に決めてもらえるように働きかけている。
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ここでの生活の主人公が誰であるか理解すると共に今、何をしたいのかを把握して、希望に添った支援を実践している。
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節毎に衣替えを行っている。企画行事やレクリエーションなど行う時は、その場に応じた衣装を入居者に選んでもらっている。
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事は、入居者の嗜好品や季節野菜を取り入れている。又、得意分野や役割が確立しており、それぞれが楽しんでいらっしやる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入居者の健康状態を観察し、食事面からもサポートができるように、関連施設の管理栄養士と相談しながら、一人ひとりの状態に合わせたメニューを提供している。

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・毎食後、自立でできる方は行ってもらい、そうでない入居者については、ブラッシングやうがいもリハビリの一環と考えているため、できない部分を介助している。異常がみられる場合は、歯科受診している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>・排泄の失敗によるダメージを減らすため、それぞれのパターン及び記録表を参考にし羞恥心に配慮しながら、ケアを行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事面では、豆乳バナナ、ヨーグルト、ゼリー等、便通に良い食材を取り入れている。又、適度な運動を行い腸管蠕動を促している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>・入居者に便汚染等が見られる時などは、タイミングよく入浴してもらっている。季節感を取り入れ菖蒲湯やゆず風呂等、支援している</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・気温や湿度といった環境面の配慮を行っている。また、夜間眠れない方には、昼夜逆転にならない様子を一日のリズムをつくり、安心して気持ちよく休息できるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・1日毎に専用ケースに納めている。内服管理ノートに薬名、目的用法、用量等が記入されている。職員は、これを周知して医師の指示とおり支援している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの趣味や力を活かした生活を取り入れて、洗濯物たたみ、お掃除、茶碗洗い、花の水まき、裁縫等を支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・気分転換として、散歩に出かけたり、日光浴、花見等出かけたりしている。また、希望にそって、家族にも付き添いを依頼し、一緒に出かけている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の意思を尊重し家族と相談して、必要に応じて必要金額を使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・いつでも電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している。入居者希望により代行して電話をしたり、手紙の代筆をするようにしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共用の空間部分については、不快感などを感じさせないよう、換気や清掃又、芳香剤等を設置するなど、入居者が居心地よく過ごせる環境をつくっている。生活空間部分については、四季の草花を飾っている。周囲については、自然に囲まれており又、窓からは、平成新山が一望できる。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・窓が広く外の景色を眺めることができる。また、和室もあるので、足を伸ばしてのんびりと、過せるよう工夫している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族と相談し、今まで使用されていた馴染みのものを持ってきてもらい、家にいらっしゃった時と近い状態になるように工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ等わかりやすい場所にある。床は、バリアフリーで安全に移動ができる。簡単な作業などは、共同の食堂や和室で安全にできる。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ケア会議を開催することで、理念の共有を図りながら、意見交換や議論の重要性を大切にしている。また人材育成の場とも捉え、実践に繋げている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・入居者やその家族の方々及び、職員・業者を含め、お互いの関係性を深めている。外出先では挨拶を交わしたりして日常的に交流を行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入居者家族等の面会時や電話での相談・報告を通じその会話の中で、知識や経験から、例を上げ支援の方法や考え方を提案させていただいております。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議出席者の構成をはじめ、より多くの意見や改善点など表出しやすい環境をつくることに重点を置いた取組みを行っている。事例として、駐車場や階段が利用しにくいとの声が聞かれ、すぐに整備を行いました。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南島原市となって各課の担当者に、申請、調査時などで不明な点がある場合、意見交換を行いながら、より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束委員会を中心として、勉強会を開催し具体的な行為等を正しく理解している。又、寄り添う心のケアを持ち、拘束しないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束委員会の中で学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、同様に入居者のこれまでの生活歴をリスペクトすることで、防止に繋げている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・認知症実践者研修等に参加して理解に努めている。また、市の担当者、社協、当ホームの関連施設の社会福祉士等を交え話し合いながら支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約に関して、入居前にできるだけ本人と家族が一緒に見学に来てもらい、不安や疑問点がある場合は、十分な説明を行い納得をいただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・毎月陽だまり新聞を刊行して、お知らせや行事等を記載し情報を発信している。また、面会時に入居者の日常生活の暮らしぶりを報告するだけでなく、家族等の意見や要望等を頂戴している。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者は、職員がこころを開いて話しやすい関係性を築いて聞く機会を設け、反映できるように代表者へのつなぎ役として取り組んでいる。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・キャリアパスとして、職員の資質向上の為の目標を設定し取り組んでいる。また、個別面談を実施するなど、意識改革及び環境面での整備を図っている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・関連施設を含む委員会の勉強会を開催。その他、ユニット毎で目標を設定し脳トレで知識を学びながら、ケア技術等を習得し能力向上に繋げている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・介護事業所連絡協議会に加盟して同業者との交流及びネットワークづくり又、勉強会を通じて、サービスの資質向上に取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・本人が安心して納得できるように、要望等に対して、適切に答えながら、安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・サービスをいきなり開始するのではなく、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本人や家族の希望、要望を傾聴し確認作業を行いながら、対応している。医療面では、主治医に相談して指示を受け、ケアを提供している。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・本人ができる事できない事を把握し、生活リハビリも兼ねた上で、一緒に食事の片付け、洗濯物をたたむ等、簡単な仕事を行ってもらっている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・行事ある事に電話や新聞にて家族への参加を呼び掛けたり、新聞にて施設での様子を知らせたりしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>・特にカットやパーマ、毛染めにセット等については、入居者の希望を聞きながら、馴染みのある行きつけの美容室に同行したり、一人ひとりの関係がとぎれないよう支援に努めている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・職員が利用者の間に参加して、お互いが関わり合いながら、話をし歌を唄ったりと、生活を楽しくいただいている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・ドライブなど外出した場所で合った時には、お互い声を掛け合っている。又、入院等により退居された方々については、お見舞いに行ったりと関係を断ち切らないように努めている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・本人や家族との会話から、アセスメントシートに生活歴や入居者の思いを書き込んでいる。一人ひとりにあった暮らしづくりを考えている。</p>		

24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・家族や本人に生活歴を詳しく聞いて、ホームでの生活に役立てている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>・職員がその日の過ごし方を把握し、職員間で連携を取り、状態の観察を行い、現状に変化がみられる場合は、報告し合うよう努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・現状に応じ「なぜを」キーワードに背景を探ることによって、より良い改善方法を導き出している。会議の場では、多くの意見を参考にしながら、計画を作成している。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・個別のカルテに日々の生活記録を取り、情報を共有し又、意見を出し合いながら、より良いケアの実現に向けて、介護計画を活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・関連施設でのリハビリテーション、家族の宿泊、個別の家庭訪問（希望により入居者同行）、買い物の依頼など、満足していただけるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・福祉体験学習等を受け入れて、協力しながら支援している。地域が主催するものは、積極的に参加できる様、支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・本人及び家族等の希望を大切にしながら、主治医と相談しながら、適切な地域医療が受けられるよう支援している。</p>		

31		<p>看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・当ホームでは、医療連携体制を整えている。その為、すぐ近くにはかかりつけ医院があって、医療機関との連携を密にしたケアを行っている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入居者が入院した場合は、病院に足を運ぶなど情報交換している。また、退院できる状態になった場合は、主治医と相談しながら、利用者が再び安心して過せるように病院関係者と連携を図っている。</p>	/	/
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・重度化や終末期のケアについては、主治医が家族に対して、当事業所でできること、できないこと等の説明を行い、同意を得てから実施している。医療機関との連携を密にして方針を共有しながら、チームケアに取り組んでいる。</p>	/	/
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・職員は、関連施設と合同で勉強会を行い、知識と技術の向上に努めている。また、医療機関と連絡を取り合い迅速に対応できる体制をとっている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・訓練の際は、自治会長や消防団の方にも声かけし協力を依頼している。また、水、食材、ラジオ、電灯、入居者のチャート、写真などをひとつにまとめて、災害時には、すぐに持ち出せる様に準備している。</p>	/	/

		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>・家族関係や生活歴などを把握して職員全員が情報を共有しながら、信頼関係の構築に努めている。個人の秘密保持を守り、人格を尊重した言葉掛けや対応をしている。</p>		
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>・入居者にとって、どうすれば自分らしい生活を楽しむことができるかを日常的に考えている。また、こちらから誘導するのではなく、利用者本位に決めてもらえるように働きかけている。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・ここでの生活の主人公が誰であるか理解すると共に今、何をしたいのかを把握して、希望に添った支援を実践している。</p>		
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>・季節毎に衣替えを行っている。企画行事やレクリエーションなど行う時は、その場に合った衣装を入居者を選んでもらっている。</p>		
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食事は、入居者の嗜好品や季節野菜を取り入れている。又、得意分野や役割が確立しており、それぞれが楽しんでいらっしやる。</p>		
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・入居者の健康状態を観察し、食事面からもサポートができるように、関連施設の管理栄養士と相談しながら、一人ひとりの状態に合わせたメニューを提供している。</p>		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・毎食後、自立でできる方は行ってもらい、そうでない入居者については、ブラッシングやうがいもリハビリの一環と考えているため、できない部分を介助している。異常がみられる場合は、歯科受診している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>・排泄の失敗によるダメージを減らすため、それぞれのパターン及び記録表を参考にし羞恥心に配慮しながら、ケアを行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事面では、豆乳バナナ、ヨーグルト、ゼリー等、便通に良い食材を取り入れている。又、適度な運動を行い腸管蠕動を促している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>・入居者に便汚染等が見られる時などは、タイミングよく入浴してもらっている。季節感を取り入れ菖蒲湯やゆず風呂等、支援している</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・気温や湿度といった環境面の配慮を行っている。また、夜間眠れない方には、昼夜逆転にならない様に一日のリズムをつくり、安心して気持ち良く休息できるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・1日毎に専用ケースに納めている。内服管理ノートに薬名、目的用法、用量等が記入されている。職員は、これを周知して医師の指示とおり支援している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの趣味や力を活かした生活を取り入れて、洗濯物たたみ、お掃除、茶碗洗い、花の水まき、裁縫等を支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・気分転換として、散歩に出かけたり、日光浴、花見等出かけたりしている。また、希望にそって、家族にも付き添いを依頼し、一緒に出かけている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の意思を尊重し家族と相談して、必要に応じて必要金額を使えるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・いつでも電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。入居者希望により代行して電話をしたり、手紙の代筆をするようにしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共用の空間部分については、不快感などを感じさせないよう、換気や清掃又、芳香剤等を設置するなど、入居者が居心地よく過せる環境をつくっている。生活空間部分については、四季の草花を飾っている。周囲については、自然に囲まれており又、窓からは、平成新山が一望できる。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・窓が広く外の景色を眺めることができる。また、和室もあるので、足を伸ばしてのんびりと、過せるよう工夫している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族と相談し、今まで使用されていた馴染みのものを持ってきてもらい、家にいらっしゃった時と近い状態になるように工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ等わかりやすい場所にある。床は、バリアフリーで安全に移動ができる。簡単な作業などは、共同の食堂や和室で安全にできる。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない